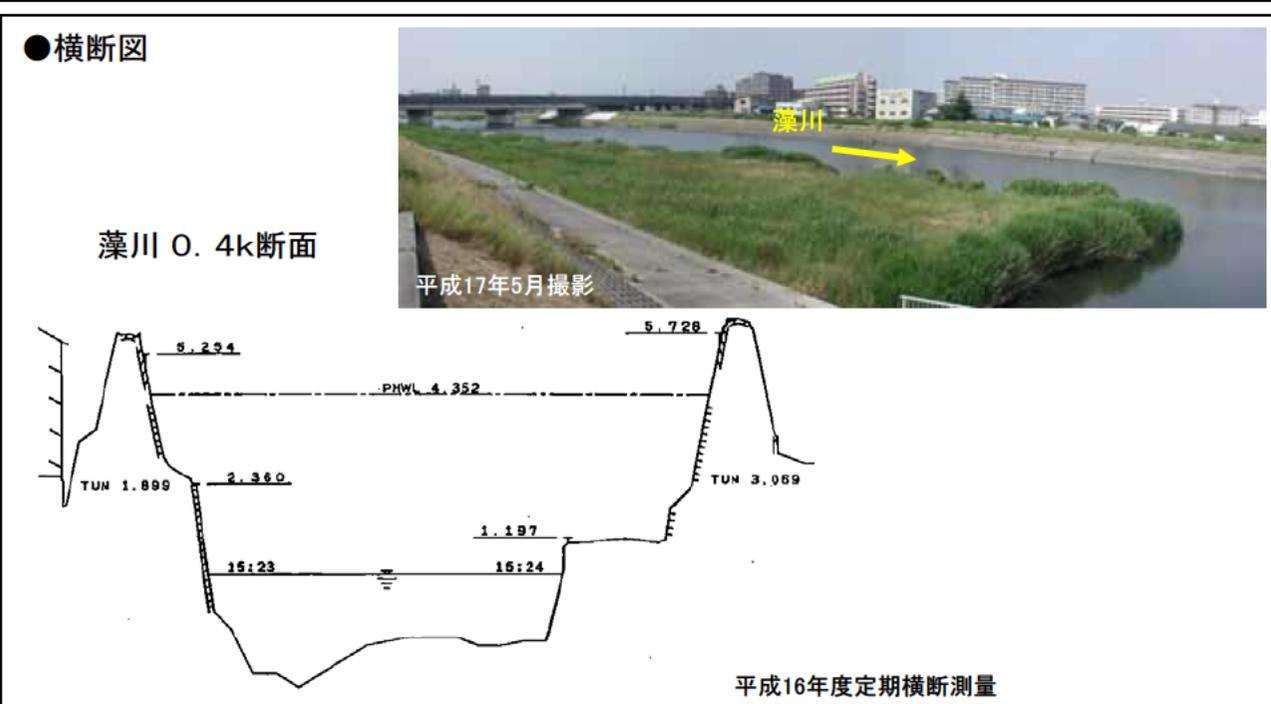
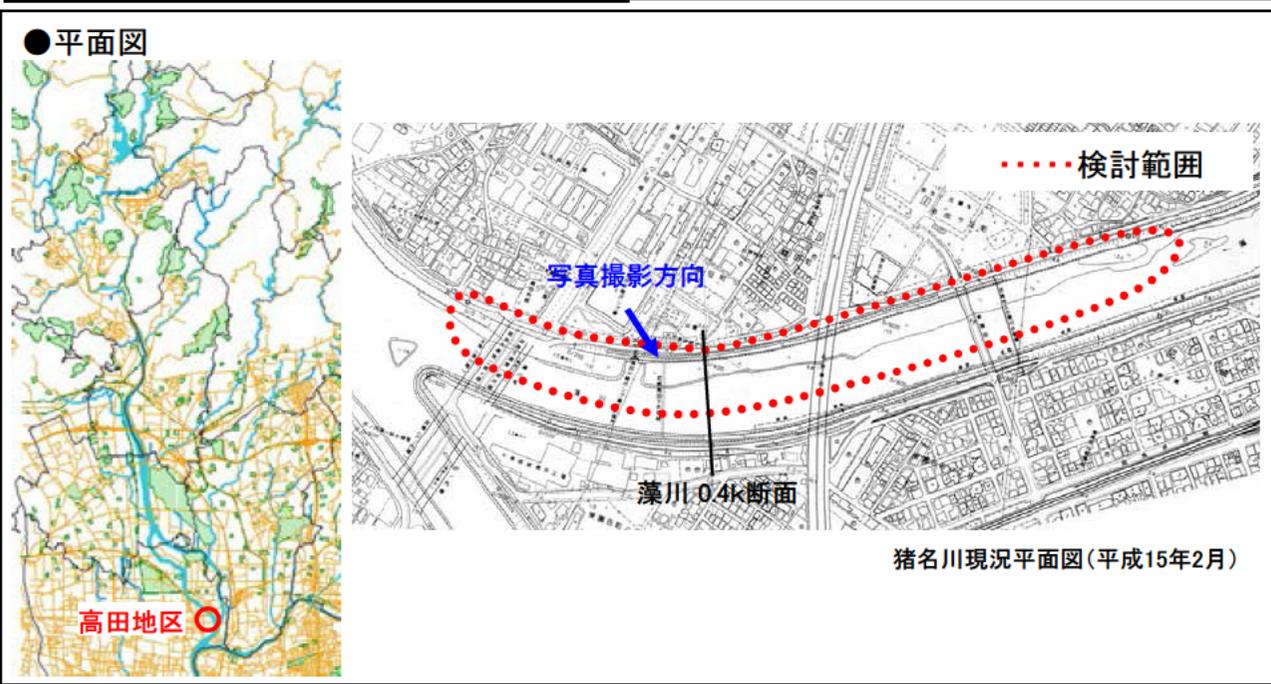
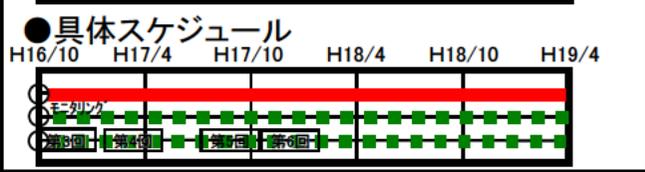
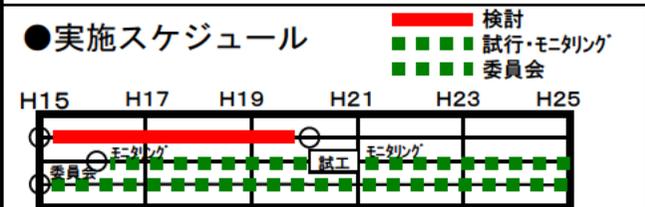


高田地区

●具体的な整備内容
横断方向の河川形状を修復し、水陸移行帯を保全しつつ、再生についても検討する。

●事業の数量・諸元等
延長約1km(藻川)

●事業費



整備効果

侵入する外来種植物等を駆逐し、藻川下流部の汽水域のヨシ原の保全、再生を図ると共に、そこを生息地とする多様な生物の生息環境を保全、再生する効果も期待される。

提案理由

現在もまとまった規模のヨシ群落が残されており、また周辺水域は汽水域で汽水性の生態環境が見られるなど特徴的で、猪名川では稀少な地域である。

調整経緯



平成17年 9月 7日 第5回猪名川自然環境委員会開催

平成17年12月14日 第6回猪名川自然環境委員会開催

委員会等からの意見

- ・ ヨシ群落回復の評価としては、オオヨシキリを対象とする方が適切である。
- ・ 堰、土砂問題を猪名川の物理環境として評価し、目標設定に結びつける必要がある。
- ・ 猪名川の景観をどうするのかという観点も目標を設定するうえで入れるべき。
- ・ 自然環境の目標設定は、個体種の保全・再生ではなく、どんな生態系を回復させるべきかという観点で考えなければならない

(注:上記は環境委員会審議の中における関連意見を抜粋したものである)

進捗状況

【自然環境委員会】

- ・ 横断形状修復検討の前段として環境目標（ランドデザイン）を検討中

進捗状況



第5回委員会の様子



第6回委員会の様子

東園田地区

●具体的な整備内容

横断方向の河川形状を修復し、水陸移行帯を保全しつつ、再生についても検討する。

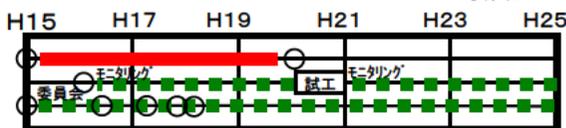
●事業の数量・諸元等

延長約600m (藻川)

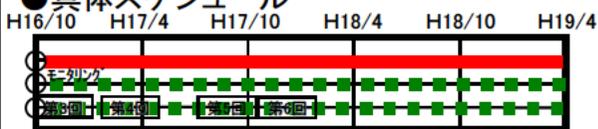
●事業費

●実施スケジュール

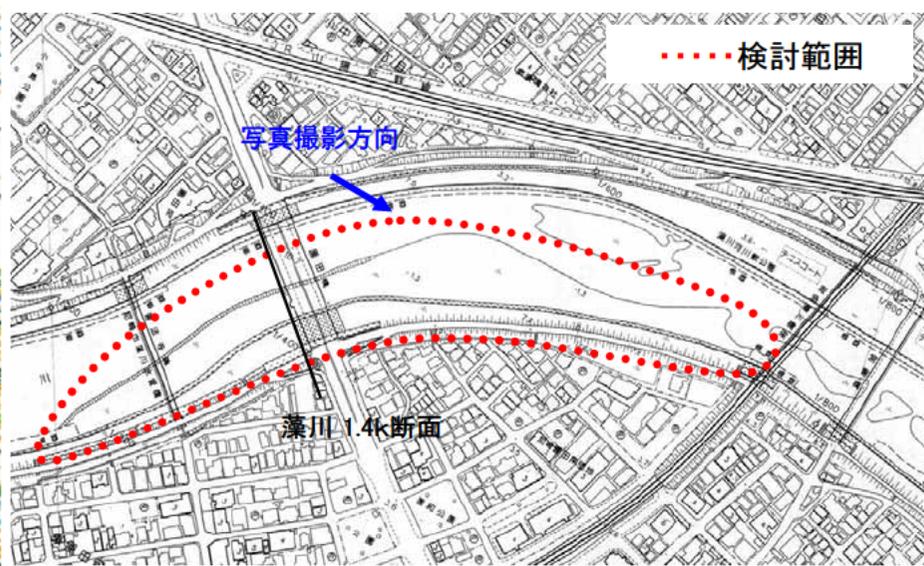
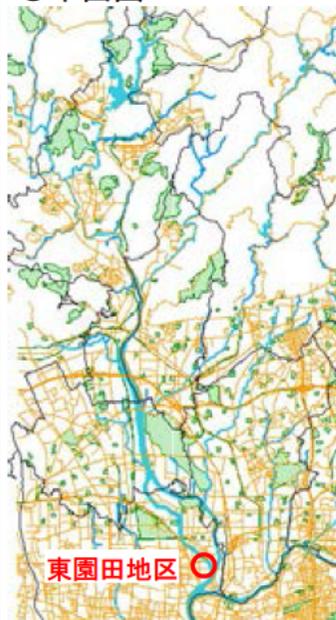
- 検討
- 試行・モニタリング
- 委員会



●具体スケジュール



●平面図



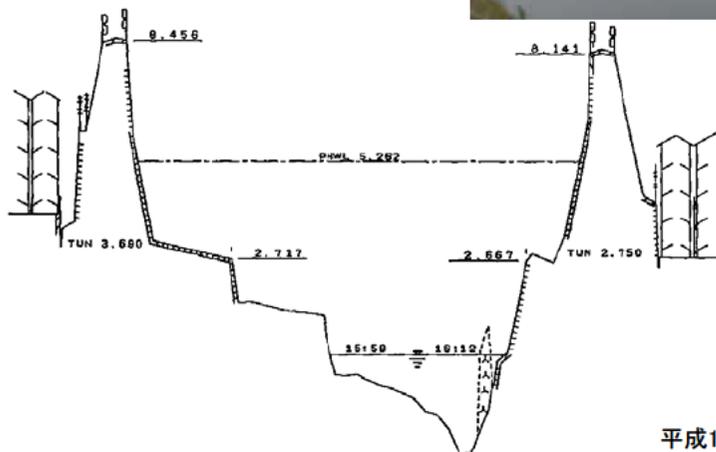
猪名川現況平面図(平成15年2月)

●横断面図

藻川 1.4k断面



平成17年5月撮影



平成16年度定期横断測量

整備効果

侵入する外来種植物等を駆逐し、藻川下流部の汽水域のヨシ原の保全、再生を図ると共に、そこを生息地とする多様な生物の生息環境を保全、再生する効果も期待される。

提案理由

現在もまとまった規模のヨシ群落が残されており、また周辺水域は汽水域で汽水性の生態環境が見られるなど特徴的で、猪名川では稀少な地域である。

調整経緯



平成17年 9月 7日 第5回猪名川自然環境委員会開催

平成17年12月14日 第6回猪名川自然環境委員会開催

委員会等からの意見

- ・ ヨシ群落回復の評価としては、オオヨシキリを対象とする方が適切である。
- ・ 堰、土砂問題を猪名川の物理環境として評価し、目標設定に結びつける必要がある。
- ・ 猪名川の景観をどうするのかという観点も目標を設定するうえで入れるべき。
- ・ 自然環境の目標設定は、個体種の保全・再生ではなく、どんな生態系を回復させるべきかという観点で考えなければならない

(注:上記は環境委員会審議の中における関連意見を抜粋したものである)

進捗状況

【自然環境委員会】

- ・ 生息・生育環境の保全・再生検討の前段として環境目標（ランドデザイン）を検討中
- ・ 過去から現在までの評価及び課題の整理

進捗状況



第5回委員会の様子



第6回委員会の様子

北河原地区

●具体的な整備内容

横断方向の河川形状を修復し、河原環境の再生を検討する。

●事業の数量・諸元等

延長約800m (猪名川)

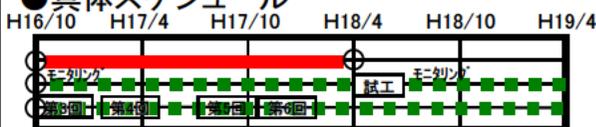
●事業費

●実施スケジュール

- 検討
- 試行・モニタリング
- 委員会



●具体スケジュール



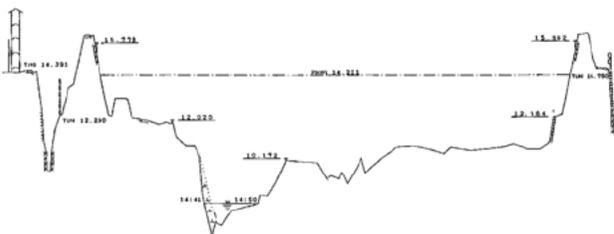
●平面図



猪名川現況平面図(平成15年2月)

●横断面図

猪名川 7.0k断面



昭和47年8月撮影



平成16年9月撮影

整備効果

中小洪水でも冠水し攪乱作用の受けやすい河川形状にすることで、減少著しい砂礫河原を再生・拡大させることで親水性をとりもどし、また近年河川敷で優占してきている外来種及び陸生植物を減少させ、河原環境特有の動植物を保全・再生する。

提案理由

もともと河原環境が広がっていた地域であったが、近年みお筋の固定化等により乾陸化及び外来植物の優占が目立ち、現在では河原はごくわずかとなっている。また、猪名川ではここでしか確認されなくなった貴重な動植物も生息・生育している。

調整経緯



平成17年 9月 7日 第5回猪名川自然環境委員会開催

平成17年12月14日 第6回猪名川自然環境委員会開催

委員会等からの意見

- ・ 自然環境の目標設定は、個体種の保全・再生ではなく、どんな生態系を回復させるべきかという観点で考えなければならない
- ・ 河原環境を創出するには土砂移動がなければならない。
- ・ 冠水頻度と植生分布の関係を整理し、冠水指標を考えて切り下げ高を決め投げればならない。
- ・ 整備した物理環境に成立する生態系を予測し指標種を選ぶこと。

(注:上記は環境委員会審議の中における関連意見を抜粋したものである)

進捗状況

【自然環境委員会】

- ・ 生息・生育環境の保全・再生検討の前段として環境目標(ランドデザイン)を検討すると共に、河原環境の再生にいても検討中
- ・ 過去から現在までの評価及び課題の整理

進捗状況



第5回委員会の様子



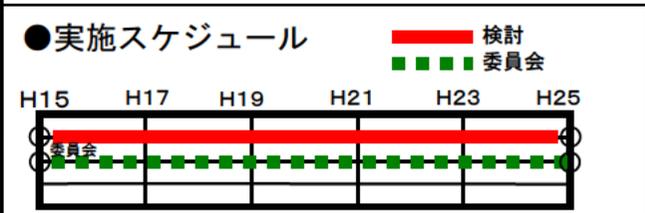
第6回委員会の様子

猪名川、藻川

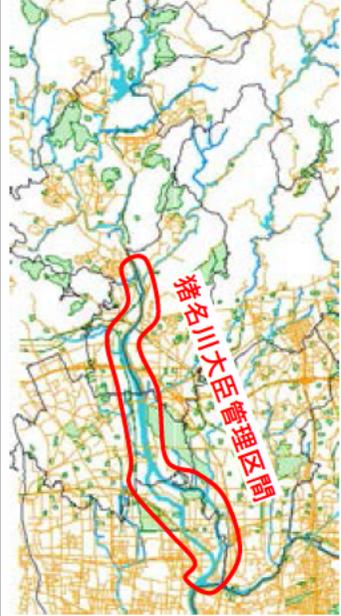
●具体的な整備内容
 生物の生息・生育環境の保全・再生に向けた取り組みが必要であることから、支川や水路を含めた構造の改善等に向けて、関係機関等と連携する。

●事業の数量・諸元等
 猪名川・藻川

●事業費



●平面図



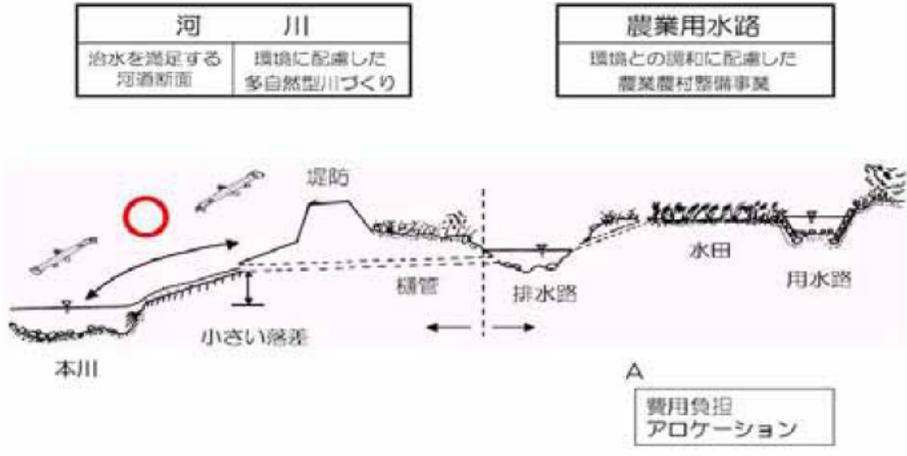
段差のある合流点(例)



●横断面図

本川-排水路-水田-用水路の連続性のイメージ

(例)



整備効果

河川管理者と関係機関が連携して総合的な水域ネットワークを確立することで、本川・支川・水路間における落差の改良や魚道の設置等による生物の移動経路の確保等を実現し、魚類等生物の広範囲な移動が可能な豊かな河川環境を再生させる。

提案理由

河川と農業用排水路等の連続性が遮断されたことにより、水田を産卵の場としていた移動経路の遮断等の問題が生じている事例もある。

調整経緯



平成17年 9月 7日 第5回猪名川自然環境委員会開催

平成17年12月14日 第6回猪名川自然環境委員会開催

委員会等からの意見

・ 自然環境の目標設定は、個体種の保全・再生ではなく、どんな生態系を回復させるべきかという観点で考えなければならない

(注: 上記は環境委員会審議の中における関連意見を抜粋したものである)

進捗状況

・ 生息環境の保全・再生検討の前段として環境目標(グランドデザイン)を検討中

進捗状況



第5回委員会の様子



第6回委員会の様子

猪名川、藻川

●具体的な整備内容

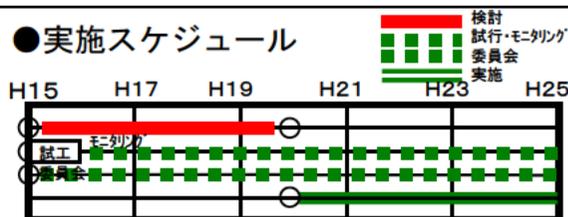
外来種の減少に向けた取り組みが必要であることから、外来種の駆除方法等について検討し、関係機関や住民及び住民団体等と連携しながら外来種対策を実施する。

●事業の数量・諸元等

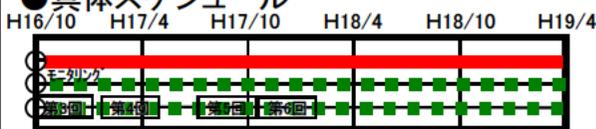
猪名川・藻川

●事業費

●実施スケジュール



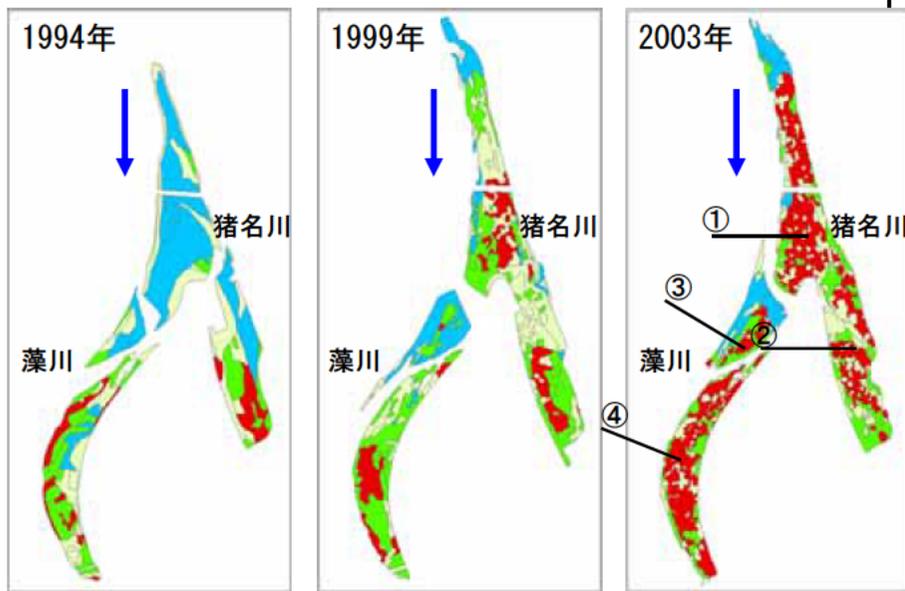
●具体スケジュール



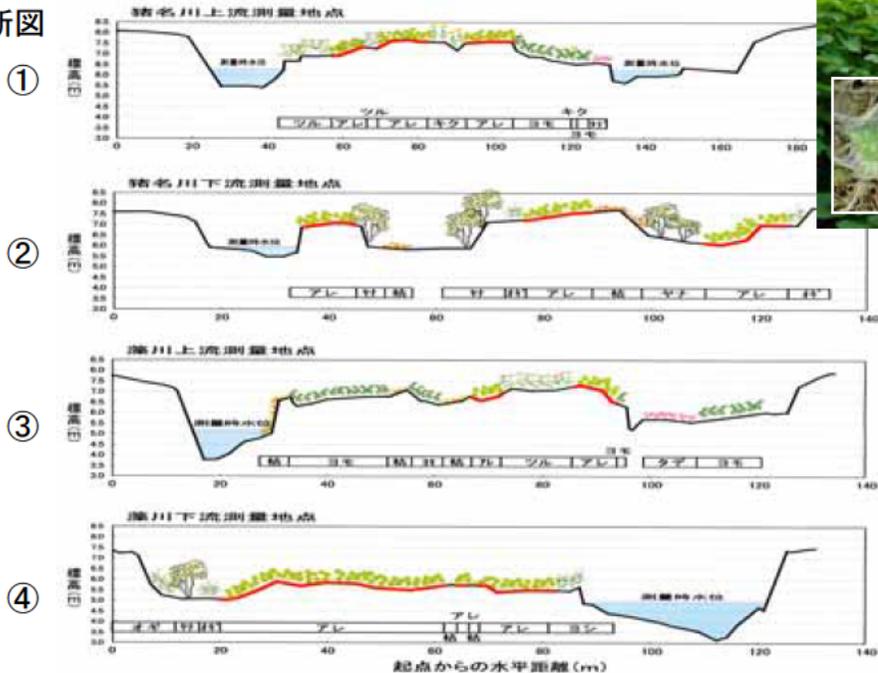
●平面図



分派点における植生の「経年変化」



●横断面図



アレチウリ

整備効果

近年急増してきている外来種により在来種の減少・消滅や、生物種の単調化等の問題が生じていることから、外来種の駆除等の対策を推進することにより、生態系の保全や生物多様性の回復を図る。

提案理由

近年全国的に急増している外来種により在来種の減少・消滅のおそれや、生物種の単調化のおそれ等、様々な生態系への悪影響が報告されている。このような状況の中、河川管理者としても河川における健全な生態系の保全が必要であるとし、外来種の減少に向けた取り組みを推進するものである。

調整経緯



平成17年 9月 7日 第5回猪名川自然環境委員会開催

平成17年12月14日 第6回猪名川自然環境委員会開催

委員会等からの意見

- ・冠水頻度を上げることが基本的なアレチウリ対策である。本来の河川に戻すことを考えれば、外来種対策はおのずと出来る。
- ・猪名川の景観をどうするのかという観点も目標を設定するうえで入れるべき。
- ・自然環境の目標設定は、個体種の保全・再生ではなく、どんな生態系を回復させるべきかという観点で考えなければならない

(注: 上記は環境委員会審議の中における関連意見を抜粋したものである)

進捗状況

【自然環境委員会】

- ・外来種対策検討の前段として環境目標（ランドデザイン）を検討中
- ・過去から現在までの評価及び課題の整理
- ・外来種対策のための調査等取り組み（試行）を継続し、対策を検討中

進捗状況



第5回委員会の様子



第6回委員会の様子